



LSEG Real-Time Managed Distribution Serviceによる クラウド移行

世界の金融サービス企業は現在、競争を勝ち抜くために、マーケット・データの取得や利用の方法を見直しています。マーケット・データの処理や保管のクラウド化が進む中、分析作業についてもクラウドで実行されるようになってきています。こうした動きの中からも一つのトレンドが生まれつつあります。多くの企業が、マーケット・データのテクノロジー・インフラをクラウドに移行し、信頼できるパートナーに管理までを委ねることに強い関心を持つようになってきているのです。それにより、企業はオンプレミス・サーバーをなくし、業務環境のクラウド化を加速して、クラウドがもたらすアジリティの恩恵を受けられるようになります。

組織に属する資本市場の専門家102人を対象にGoogle Cloudが実施した最近の調査によると、セルサイドの回答者の67%はすでにクラウド上でデータを利用しており、88%が今後のクラウド活用に前向きであることを報告しています。一方バイサイドでは、回答者の90%がクラウドベースのデータ・サービス(主にポートフォリオ管理)を利用しており、そのうちの70%が今後のクラウド活用に前向きであると回答しています。これらの統計と照らし合わせても、企業がマーケット・データのエコシステム全体をクラウドに移行しようとしている現在の動きは十分に理解できるものと言えます。

インフラの再考

数十年の間、金融サービス企業はマーケット・データに係るテクノロジー・インフラを自社で管理してきました。これは膨大な量のマーケット・データを取得、処理、保管するためのサーバーを備えたデータセンターをオンプレミスで設置し、ビジネスとテクノロジーのチームがデータを監督する必要があるため、非常にコスト高な手段になることは避けられません。また企業は、4～5年ごとにテクノロジー・スタックを見直さなければなりません。これにも多額の設備投資を要します。クラウド移行は、これらのコストの多くを削減または排除し、定期的な大規模設備投資 (Capex) が年間の運用コスト (Opex) に変わることを意味します。



情報セキュリティへの懸念もまたクラウド移行を後押しする要因の一つです。国家主体のものも含めサイバー攻撃の手段がますます巧妙になる中、専有データへの脅威も一段と高まりを見せています。金融サービス企業のような大規模で防御体制の整った組織への侵入が難しくなると、今度はサードパーティが標的にされるケースが増えています。その結果、一部の企業はサードパーティ製ソフトウェアをオンプレミスのインフラに導入することを控え、代わりにより強固なサイバーセキュリティが保証されるクラウド・ホスティングを好んで利用するようになってきました。

新世代のサポート

かつてのマーケット・データ管理は、フロントオフィス、ミドルオフィス、バックオフィスの全従業員に組織内の物理的なデータを送信する目的で企業が採用した、「プッシング」と呼ばれる大がかりなインフラに焦点を当てていました。そのため各従業員は、特定のデータに必要な特定の物理テクノロジー・インフラをサポートできるよう、高度で狭い専門知識を身につけざるを得ませんでした。このようなデータ・インフラは設置に多くのリソースを要する一方、かなり硬直的で、脱却にも困難を要するケースが多く見られました。

今日、プログラミングを行う新世代の金融エンジニア、クオンツ・アナリスト、トレーダーたちは、従来と異なるスタイルでマーケット・データに関わることを望んでいます。つまり、データにすばやくアクセスできたり、さまざまな方法を試せること、さらには迅速な本番運用ができることを期待しているのです。データが必要なものでなかったり、重要度が変わったりした場合には、データの使用を中止して次のタスクに移れるようにしたいと彼らは考えています。これまでにない、データ・アジリティに対するこのニーズは、オンプレミス環境では対応できません。今やデータは、クラウドで保管されるべきものなのです。

クラウド分析

マーケット・データをクラウドに移行することで得られる最大のメリットの一つに、クラウドでのデータ分析が挙げられます。この分析は、自社の競争優位性を高める目的で新世代の金融エンジニアたちにも利用されています。これまでは、データをサーバーからダウンロードし、その後別のサーバーで分析を実行するというものであり、このプロセスの間、大量のリソースが浪費されていました。また、完了までに数時間から数日かかることも珍しくありませんでした。もちろんその間にもチャンスは訪れ、そして去っていきます。

今日のクラウド分析は、すぐに使える既製のモデルから特定のユースケースのためにコーディングされた完全特注のモデルまで、さまざまな形態で行われています。また、クラウドで取得したマーケット・データをそのまま分析に組み込むといった使い方も可能で、必要な計算を即座に実行できます。

エコシステムの再考

このような極めて大きな変化が訪れる中、多くの企業はマーケット・データのエコシステムとの関わり方について、従来とは異なる考えを持つようになってきています。かつては、マーケット・データ・インフラを完全に自社の管理下に置く必要があるとの考えが多くの金融サービス企業で浸透していましたが、今やそうではありません。企業は、マーケット・データの管理インフラをアウトソーシングすること、特にそのインフラがクラウド上にある場合に大きなメリットがもたらされることを認識しつつあります。クラウドネイティブの企業がマネージド・サービスを利用した場合、チームが他の戦略目標に集中して取り組むための余裕が生まれます。他方、従来型の金融機関がマネージド・サービスを利用する場合には、リソース配分の見直しが行われるほか、アジリティの向上や競争力の強化が期待できます。

変化をもたらす

これらの変化が織り成す一連の流れにより、世界中の金融サービス企業は、オンプレミスのマーケット・データ・インフラに代わるクラウドベースのマネージド・サービスへの関心を高めています。クラウド移行を検討している企業は、社内サーバーからの脱却、イノベーションの実現、そしてフロントオフィスからバックオフィスに至るまでのアジリティの向上を期待しています。

LSEG Real-Time Managed Distribution Service は、パブリック・クラウドおよびプライベート・クラウドベースのマーケット・データ管理サービスです。世界800社以上のお客様から信頼され、12年以上にわたってマネージド・サービスを提供してきた実績があります。LSEG は、企業が必要とするあらゆる機器、フィード、プラットフォーム、接続サービスを運用・管理しています。

LSEG Real-Time Managed Distribution Service を利用することで企業は以下のメリットが得られます。

信頼性

- **豊富なデータの活用** - LSEGの独占コンテンツやサードパーティ・ソースを含む、500以上のベニューにおける約9,000万件の商品へのアクセス
- **データの選択** - コード体系、ESG、時系列、ヒストリカル、その他多くのデータセットを含むサービスでリアルタイム・データを補完
- **データの公開** - 特定のソリューション・オプションでデータセットの配信機能を企業に提供。このオプションにより、定義されたエンドポイントへの情報公開を許可できるようになります。また、コンプライアンス管理を強化することを目的として、発行者の識別子情報も併せて提供されます。

管理

- **データ管理** - データ・エンタイトルメントを管理してコストを管理しつつ、ベンダー監査のコンプライアンスを維持
- **データ接続** - JSON や Websocket など、ビジネスニーズに合ったAPIの選択
- **特定のクラウドサービスに依存しないアプローチ** - どのクラウドサービス・プロバイダーにも提供・対応可能なソリューション

サポート

- **強固なオペレーショナル・レジリエンス** - 世界19カ所のデータセンターからマーケット・データの継続性をサポート
- **充実のカスタマーサポート** - 24時間年中無休のカスタマーサポート、世界各地でのモニタリング、専任のサービス・マネージャーによるバックアップ
- **ニーズに合わせたスケーリング** - ビジネスニーズに合わせてアジリティを調整し、コスト削減とビジネスチャンスの獲得に寄与

LSEG Real-Time Managed Distribution Service は、時間や社内リソースに負荷をかけることなく、日々変化する企業のニーズに迅速に対応します。クラウド上で提供されるため、ビジネス規模の拡大・縮小、新しい地域の追加、新しいデータ・ソースの使用により、企業はグローバルなサービスを迅速かつ容易に拡大できます。これにより業務時間が確保され、チームは価値のある他の活動にも取り組めるようになります。また同時に、グローバル・スタンダードやローカル・スタンダードに準拠したオペレーションが保証されます。

ニーズに合わせて選択可能

Real-Time Managed Distribution Service は、クラウドネイティブまたはクラウド移行を検討している大企業および中小企業のニーズに沿った以下の3つのサービスモデルで展開されています。

- **Real-Time Managed Distribution Service – Core:** デスクトップとアプリケーションに最大25万件の商品データを提供する既製モデルで、事前に定義された設定オプションと新しいAPIのみ利用可能です。当モデルは、パブリック・クラウドを利用している、またはパブリック・クラウドからのデータ配信に抵抗がないお客様向けに設計されています。
- **Real-Time Managed Distribution Service – Complete:** 当モデルは、プライベート・クラウドとパブリック・クラウドのどちらからでもご利用いただけます。Coreと比較して、より多くのオプションが用意されているのが特長です。LSEGが配信しているデータを含め、最大50万件の商品データをデスクトップやアプリケーションに提供します。サポートされているAPIを通じて利用することが可能で、LSEGのデータ変換サービスを含め設定オプションも充実しています。
- **Real-Time Managed Distribution Service – Custom:** プライベート・クラウドで利用可能な当モデルは、50万件以上の商品データをデスクトップやアプリケーションに配信します。その他にも、マルチベンダーによるデータ配信、選べる設定オプション(フル/カスタム)、充実したサポートAPI、LSEG独自のデータ変換サービス、LSEGおよびサードパーティのデータ・フィード配信サービスなどをご利用いただけます。

企業との緊密な連携を通じてLSEGチームは、オンプレミスのマーケット・データ・インフラをクラウドに移行するタイミングなど、企業ごとのデジタル・トランスフォーメーション・プログラムを把握し、その企業に適したオプションを提案します。

LSEG Real-Time Advanced Transformation Serverを利用した分析

今日、多くの企業は標準的なマーケット・データ以上の配信を求めるようになってきました。具体的には、マーケット・データと一緒に主要分析項目の結果を提供するようなデータ変換サービスを求めており、これをリアルタイムでの意思決定に役立てたいと考えています。LSEG Real-Time Advanced Transformation Serverは高性能かつ低レイテンシーの計算エンジンであり、特定のオプションを利用すればReal-Time Managed Distribution Serviceに組み込むことも可能です。このソリューションを利用することで、金融サービス企業は以下のことが可能になります。

- **データ統合** - ウェブベースのインターフェース上で社内外のデータ・ソースを統合
- **演算** - イールドカーブ、関数、データ、期間、統計関数演算を実行
- **データ解析** - ページまたはレコード・ページから抽出したデータを論理レコードへ変換例えば、何百ものブローカーのページを自動解析・集計し、最良の価格を特定することが可能です。
- **データ管理の一元化** - 異なる地域間で同一データを処理戦略的アルゴリズムは専用の計算サーバーに置くことも可能です。
- **ユーザー管理** - Real-Time Advanced Transformation Serverのレコードを作成、更新、削除できるユーザーを制限

LSEG Real-Time Advanced Transformation Serverは、LSEGがデータ変換を提供するための方法の一つに過ぎません。

Real-Time Managed Distribution Serviceのユーザーが分析を利用する方法は他にもいくつかあります。LSEGチームは先ごろ、AWSのReal-Time - Optimized フィードをGoogle Cloud Platformに移植しました。チームは5日足らずで概念実証を作成し、その後Google® BigQuery™を利用して、複数のインデックスで時間加重平均価格(TWAP)と出来高加重平均価格(VWAP)の計算を開発しました。その後、ある大手金融サービス会社はReal-Time Managed Distribution Serviceに接続し、ウェブブラウザ経由で分析ファイルを取得しました。

将来を見据えて

LSEGは、お客様が現在または将来抱えているであろうニーズに応えるべく、クラウドを活用したイノベーションにチーム一丸で取り組んでいます。2023年からパブリック・クラウドで稼働を開始するLSEG Real-Time - Full Tickは、LSEG Real-Time Managed Distribution Serviceを通じて配信される板情報の完全なリアルタイム・データ・フィードです。LSEG Real-Time - Full Tickには、レベル2のデータと分析サービスが組み込まれており、LSEG Real-Time Managed Distribution Serviceのソリューションとして利用することができます。

進展は他にもあります。2023年、LSEG Real-Time Managed Distribution Serviceは、企業が利用しているアプリケーションやプラットフォーム(パブリック・クラウドの主要サービス・プロバイダーを含む)の拠点を問わず、LSEGが管理するポイント・オブ・プレゼンス(POP)からすべてのリアルタイム・データとマネージド・サービスを提供できるようになります。また、2024年から2026年にかけてLSEGは、リアルタイム・データおよびマネージド・サービスをパブリック・クラウドで全面的に提供することを予定しています。これによりクラウドベースのコンシューマー・アプリケーションとLSEGのデータ、サービス、分析ソースが同居することになり、コストとパフォーマンスが最大限に効率化されます。

LSEGは、お客様の現在そして将来のためのクラウド・ジャーニーを全力でサポートすることに努めています。

LSEG Real-Time Managed Distribution Serviceに関する詳細やお問い合わせは、LSEGの[ウェブサイト](#)をご覧ください。

関連ソリューション

[Real-Time - Optimized](#)

[Real-Time Full Tick](#)

[Real-Time Distribution System](#)



LSEG DATA & ANALYTICS